

科目名	作業療法基礎理論			ナンバリング	ASF238	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	北山 淳	担当教員					

授業の概要	作業を治療や援助の手段として応用する基本原理である作業科学とそれを基にしたさまざまな作業療法実践モデルについて学修する。対象者が必要とする作業が、ニーズに沿ったものであるのか、それを行う個人にとってどのような意味を有しているのか、対象者をひとりの生活者として捉え、その人の立場にたった援助が行えるよう作業の概念を構築する。		
到達目標	1 作業科学・作業療法における作業とは何かを考えられる 2 人にとっての作業の意味を考えられる 3 作業の形態について説明できる 4 作業療法における臨床の治療理論について説明できる。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	本授業をきっかけとして作業科学の発展に関心を持つ人が増えることを期待しています。		
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部作業療法学科ディプロマポリシー】		
	○	1 広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を身につけている。	
	○	2 地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。	
	○	3 健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。	
	○	4 健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。	

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 作業療法と各種理論との関連性を述べることができる 2 作業療法基礎理論の根拠を述べるができる	1 作業療法の科学的根拠を論じることができる 2 各種理論について説明できる

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	●						80%
小テスト・授業内レポート	●						10%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		●	●	●			10%

課題、評価のフィードバック	manabaによるフィードバックを行う
---------------	---------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション 作業療法の理論	授業概要の説明	
	第2回	身体障害に対する作業療法の理論 1	身体障害(中枢神経障害)に対する作業療法の変遷	
	第3回	身体障害に対する作業療法の理論 2	身体障害(その他の障害)に対する作業療法の変遷	
	第4回	発達障害に対する作業療法の理論	発達障害(乳幼児期～就労期)に対する作業療法の変遷	
	第5回	高齢者に対する作業療法の理論	高齢の障害者に対する作業療法の変遷	
	第6回	地域で生活する対象者に対する作業療法の理論	地域生活をする多様な障害者に対する作業療法の変遷	
	第7回	精神障害に対する作業療法の理論	精神障害に対する作業療法の治療理論と変遷	
	第8回	まとめ	様々な疾患に対する作業療法の治療理論を振り返る	
	試験	全講義終了後に期末試験(筆記試験)を実施する。試験範囲は全範囲とする。試験実施日は、掲示板およびポータルサイトに掲示されるので必ず確認すること。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする確認小テストを実施する場合もある。		
授業外学習の指示		資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科書で確認するか教員に質問すること(予習90分、復習90分) (授業外学習時間： 毎週 分)		

教科書	作業療法実践の理論 原書第4版 定価 5,076円(本体4,700円+税8%) ISBN978-4-260-01975-0
参考書	特に指定しない 著:ギャーリー・キールホフナー 監訳:山田 孝
参考URLなど	
その他	